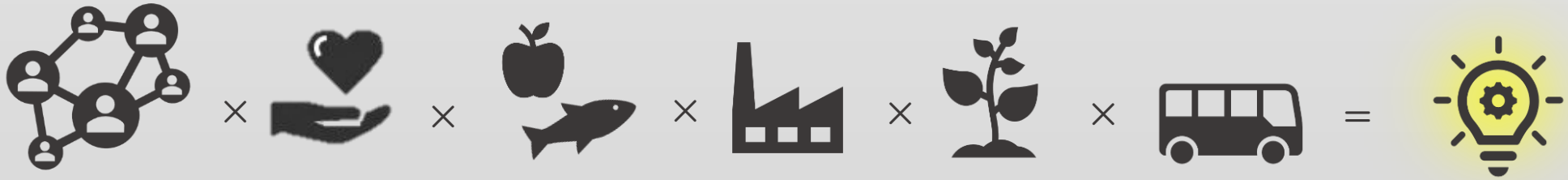
かさねる いこま

～生駒市重層的支援体制整備事業～

支援と支援の「はざま」となって必要な支援が受けられない
家の中の色々な問題を一緒に考えてくれる人がいない

そんな困りごとと向き合い、誰もが住みたいまちにするために
行政や福祉分野の関係者、様々な社会・経済活動、そして生駒市民が協創し、
今ある様々な資源を「かさね」ることで、想像を超えた未来が生まれるはず。

それが、**かさねるいこま ～生駒市重層的支援体制整備事業～** です。



かさねる いこま

かさねるいこま は、

「支え手」「受け手」という関係を超えて、

地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、

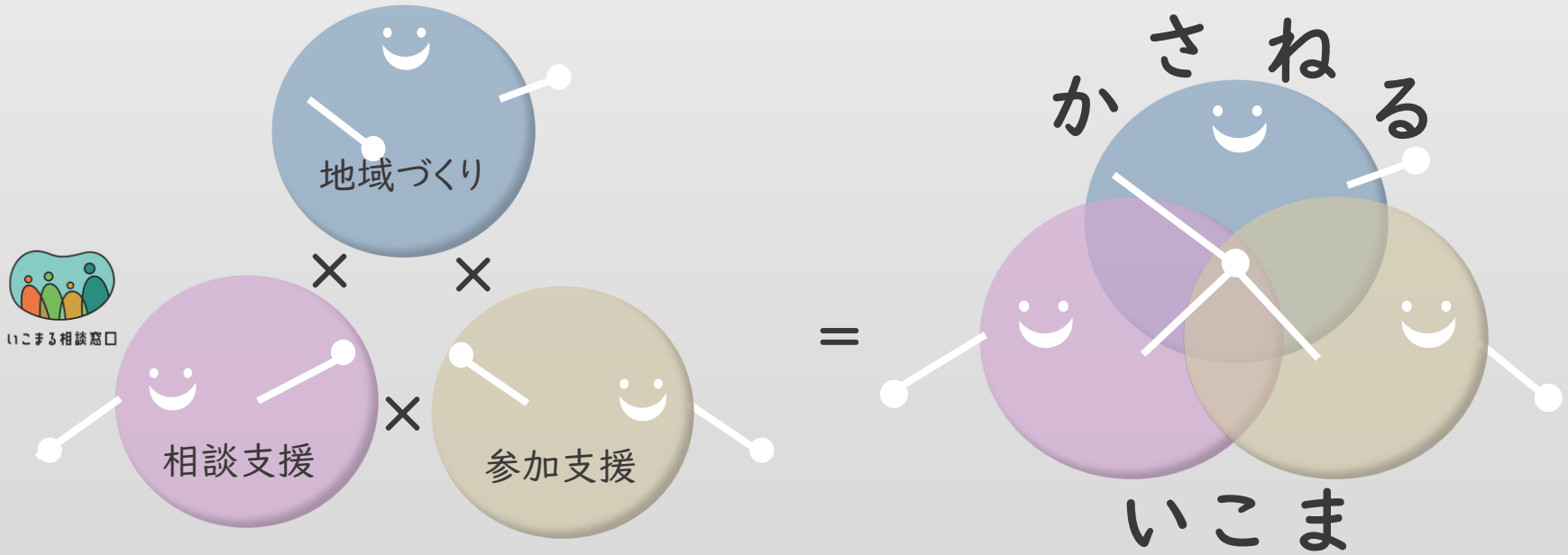
住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく **地域共生社会** を目指しています。

かさねるいこま

かさねるいこま とは、「生駒市重層的支援体制整備事業」のことです。

市町村における既存の相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業を創設するものです。

ー厚生労働省



つないでいる手は支援者同士のつながりを、
伸ばしている手は支援が届いていない方に支援の手を差し伸べるアウトリーチを意味しています。

潜在的な課題 → 課題の掘り起こし → 顕在化した課題 → 課題へのアプローチ → ・課題の解決 ・伴走支援 → 支え合いの担い手へ

【支援者が手を伸ばす】アウトリーチ

- 各種イベントへのブース参加
- アンケート調査（中年ひきこもり）
- 民生委員等からの情報提供
- 専門職の配置

【支援者が手を広げる】包括的相談支援

- いこまる相談窓口
- つなぐシート つなぐステッカー
- いこまる相談会
- 仮想空間での相談の場
- リーフレットやSNSによるいこまる相談窓口の周知

【支援者同士や対象者と手をつなぐ】多機関協働・支援プラン

- 重層的支援会議
- いこまる主任推進員

【対象者が仲間とも手をつなぐ】参加支援・地域づくり

- 専門職の配置
- 社会資源データベース
- （仮）わがごとカイギ
- 福祉イベント助成
- まちのえき
- 各種サービス

【対象者が手を貸す・借りる】

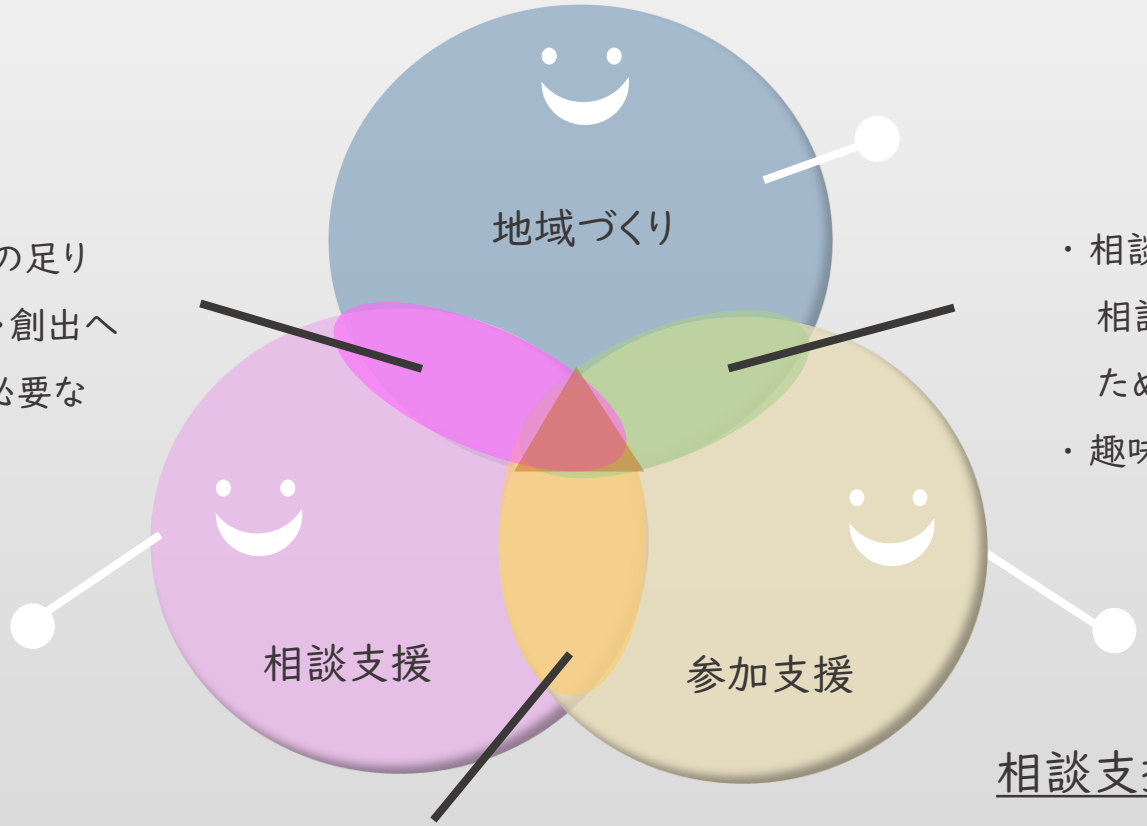
- ボランティアへの参加
- 地域活動への参加
- ピアサポート

かさねる いこま

◆ 事業をかさねる

≪重層的支援体制整備事業各事業を「かさねる」≫

それぞれの事業を重ねることで、既存の体制では支援できなかった問題を解決し、伴走支援、アウトリーチにつなげることができる。



相談支援 × 地域づくり

・相談支援を積み重ねていくうちに地域の足りない資源に気づく ⇒ 地域資源の拡充・創出へ

・既存の地域資源等の活動から個々に必要な支援に気づく ⇒ 相談支援につながる

参加支援 × 地域づくり

・相談支援での案件→社会とのつながりが必要。相談支援→地域資源へ参加を促し、定着するための支援を行うことを事業化

・趣味・関心から始まる活動が参加へとつながる

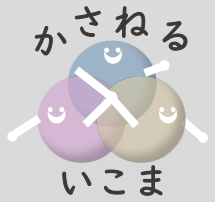
相談支援 × 参加支援

・相談支援者から依頼を受け、参加支援者が必要な資源を紹介

・参加支援者が伴走支援を行ったりモニタリングを行ったりするうちに、新たに課題が発生したり他に支援が必要な方がいれば、相談支援者が相談を受ける

相談支援 × 参加支援 × 地域づくり

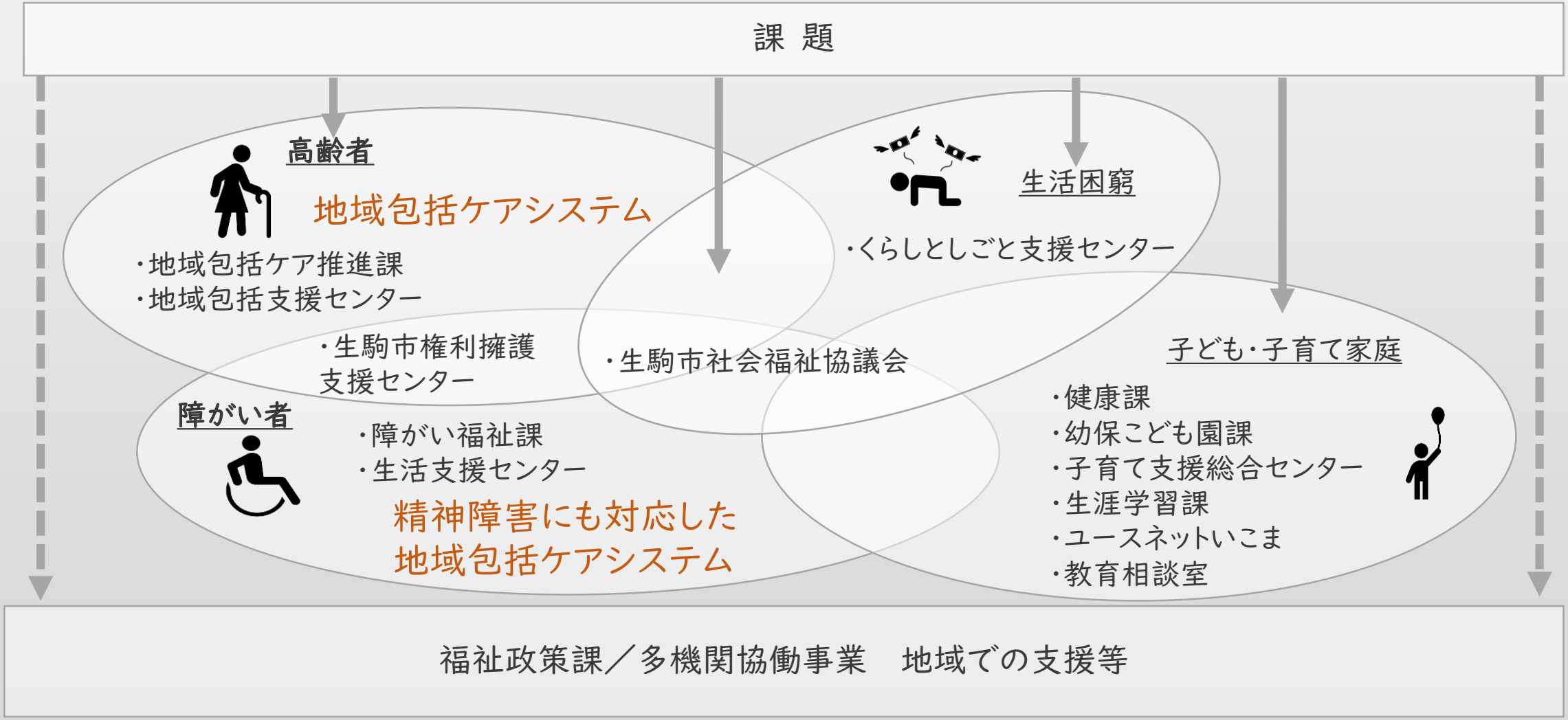
かさねるいこま



◆ 支援をかさねる

≪既存事業の高齢者・障がい者・子ども・生活困窮の4分野の支援を「かさねる」≫

4分野の支援を重ねることで「はざま」を小さくし、それでも「はざま」となってしまった案件に対しては福祉政策課が主体となって多機関連携を行うとともに、地域での支援等も積極的に活用していきます。



かさねる いこま

◆ みんなでかさねる

≪市民全員で必要な社会資源を「かさねる」≫

地域、学校、医療、福祉事業者、民間企業、行政など連携しながら、生駒市民にとって必要な社会資源をみんなで作り上げていきます。

フォーマルサービス

行政

民生児童委員

相談支援

シルバー人材センター

医療

診療・治療

ユースネットいこま

のびのびほっとルーム

学校

教育相談室

福祉事業者

福祉サービス

スクールソーシャルワーカー

インフォーマルサービス

家庭・地域

家族・親族

自治会

友人・知人

いきいき百歳体操

子ども会

複合型コミュニティ

子ども食堂

当事者会

ボランティア

民間企業

CSR（企業の社会的責任）

ソーシャルビジネス

フリースクール

かさねる いこま

・社会資源：その人のニーズを満たすために動員される物的・人的支援の総称

かさねた事例

【事例】6年間のニート生活から脱し、一般就労に至った事例

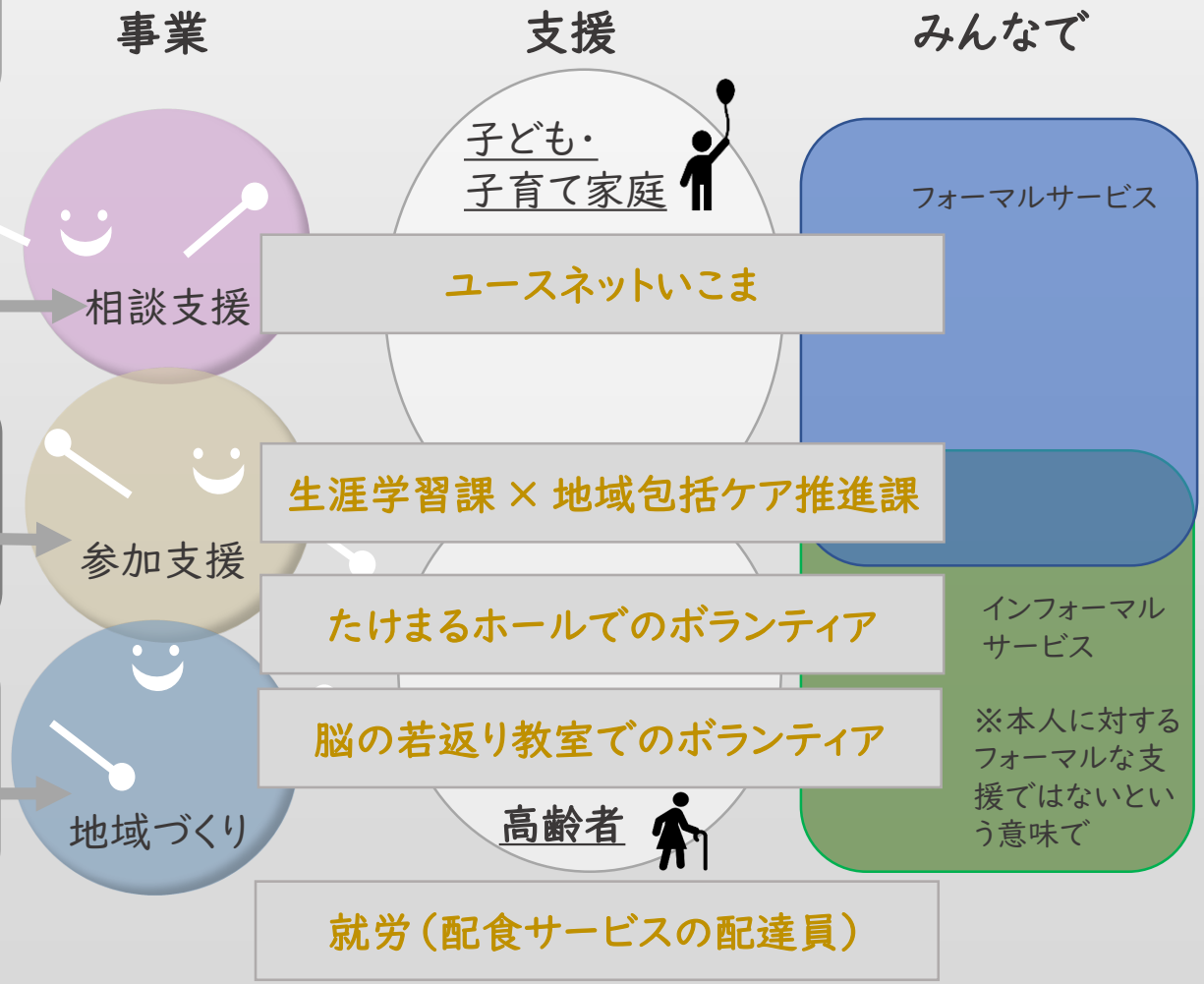
Aさん 36才 男性 現在配食サービスの配達業務を行っている

仕事で過労が続いていた。仕事上の大きなミスが発覚したと同時に母が危篤との電話が入り、パニックとなり、逃げかえるように帰ってきたままニートとなる

妹の結婚式へ招待されたことを機に、自分で検索し、ユースネットいこまに相談した

結婚式出席後、ユースネットいこまの勧めでボランティアをしたことが自信となり、ハローワークで職を探し自ら応募し面接の後就労（パートタイム）した

さらなるステップアップを望み、脳の若返り教室でボランティアを行うことで、「高齢者に喜んでいただける仕事をする」というライフワークに気づいた



当事者の思い

■仕事を辞めたとき

けじめをつけず逃げかえるように帰ってきた自分を責める気持ちが強く、前を向いて歩こうとは思えなかったです。近所の目もあるので、日中はゲームやインターネットをして過ごしていたものの、母が亡くなったので、働いている父や妹に代わり家事を役割としていたのはよかったのかもしれません。

■相談しようと思ったとき

妹の結婚式に招待された時、ニートの兄を招待したいと思ってくれたことにびっくりしました。しかし、出席したいという気になれず、そんな自分の考えに対する第3者の意見を聞いてみたいと思い、インターネットで検索し、ユースネットいこまに相談に行きました。「行かない方がいい」と言ってもらえたら、結婚式に行かなくてもいいかなとも思っていました（笑）

例えば家族から相談したら？と言われていたら、「自分のことを追い出したいんじゃないか」とかネガティブに捉えていたかもしれませんが、**自分のタイミングで動き出せたことがよかった**と思います。

Aさん

■相談に行ってみて

自宅以外の居場所ができたことはうれしかったです。怒られたり責められたりしませんでしたしね（笑）

■ボランティアに行ってみて

たけまるホールの落語の公演があり、パンフレットを折ることと、受付を行いました。人に感謝された・・・これは次のステップに進むための自信になりました。

■「脳の若返り教室」のボランティアについて

このボランティアは是非お勧めします！高齢者は話を聞いてくれるし、否定しない。ここに来る方はネガティブな方が少ないので、ぜひ体験してほしいです。

▲脳の若返り教室

かさねる いこま

支援者の思い

■支援者から見たポイント

〇〇やってみない？というと二つ返事でやってみます！という素直な性格が前進につながったと思います。Aさんは「脳の若返り教室」のボランティアの前後では明らかに変化があり、その変化に気づいた就職先のオーナーから跡継ぎになってほしいとのお声がけをいただきました。できない言い訳をするのは簡単ですが、チャンスがあれば行動することが大事だと思います。

ユースネットいこま
Bさん

▲ユースネットいこま

■お悩みの方へひとこと

未来に予定があって、約束した人がいることはとても大事なこと。勇気を出して扉をたたいていただき、ぜひ次回の予約をとって帰ってほしいと願っています。

ユースネットいこまの情報に関してはこちら ▸

このように、困りごとや相談に対し様々な事業・支援・サービス等をかさねていく、

それが **かさねるいこま** です。

かさねる いこま

このまちで、生涯住み続けたい。

そのまちは、みんなで **かさねて** いくことで生まれます。

隣の人は元気かな？

あの人最近どうしているのかな？

そんな小さな心遣いから始めてみましょう。

かさねるいこま へのご協力をお願いいたします。

かさねる いこま

生駒市 福祉健康部 福祉政策課

☎ 0743-74-1111（内線7222）

✉ kourei@city.ikoma.lg.jp